

NPO法人フリースクール札幌自由が丘学園 クラウドファンディング  
『経済的理由を乗り越えてフリースクールを利用できるよう「授業料補助」を継続したい』  
応援メッセージ No. 3



NPO 法人 共育フォーラム 理事 村越 含博

### 『違いのわかる男』がいる学園

札幌自由が丘学園の生徒との関わりで、とっても印象に残っている場面があります。

私は珈琲を入れるのが趣味・特技の一つで、ある種のこだわりすら持っているのですが、とある集まりで、生徒の皆さんの前で私が珈琲を振舞う機会がありました。

一人の男子生徒が、私のドリップする手元をじっくりとみて、何か言いたそうにしていました。そして、しばらくして意を決したのでしょうか、

「何か、淹れ方に、コツはあるのですか？」

と、話しかけてきました。私は生徒さんにわかるかどうか不安でしたが、豆の挽き方、お湯の入れ方、ドリッパーの種類などを実演しながら細かく説明し、淹れ方の違う、数杯の珈琲を彼の前に差し出しました。

すると彼は、「ん！味が違う！」と感激してくれたのです。私はつい、往年のテレビコマーシャルよろしく、「君は、違いの分かる男だね」と彼を例えました。

かれは、この「評」をととても気に入ってくれたのか、以来、学園内でも「違いのわかる男」を自認し、ことあるごとに珈琲の味を比べるのを披露したと聞いています。

彼はこの一連のやりとりのなかで、大げさなようですが、とても深い「学び」を行っています。

それは、<観察><課題設定><調査><分析><活用>そして<自己認識>です。

私は学生時代、今の札幌自由が丘学園に連なる、前身の自由ヶ丘学園の学びを見せてもらったことがあります。当時、豊かで、学ぶことの意味と楽しさをど真ん中に据えた実践がありました。

20年たって彼の姿をみたとき、やはり、この理念を思い出すのです。

彼はこの学園で過ごし、仲間やスタッフの方々との関わりの中で、自分の興味を高め、スキルを得ながら自分なりの学びを得ていたのでしょう。

学びは人を変えます。そして、どんな場でも人は学べる。だから学ぶ機会は多ければ多いほどいいのです。こういう学びを受けることのできる生徒が、一人でも増えてほしい。必要としている子が、経済や環境を理由に行けないようになるというのは、とても悲しいことです。

私も、札幌自由が丘学園を応援します。